



**UNITED NATIONS
UNIVERSITY**

国際連合大学 広報部

〒150-8925

東京渋谷区神宮前5 53 70

Tel.: 03-3499-2811

Fax: 03-3499-2828

E-mail: media@unu.edu

Website: <http://www.unu.edu/>

2005年8月2日
MR/J23/05

メディア用原稿
非公式記録

愛知万博における国連大学・ヤマハ発動機主催フォーラム 「人間と水」～飲料水と沿岸の環境保全への取り組み～

2005年8月6日(土)午後1時30分より、国際連合大学およびヤマハ発動機株式会社は愛知世界万博の国連館において公開フォーラム、「人間と水」～飲料水と沿岸の環境保全への取り組み～を開催いたします。

このイベントは、世界における水資源管理は日常的に水資源に頼っている人々にとって大変重要であるという認識を喚起するものです。フォーラムの前半部では、緩速ろ過技術の専門家であり、愛・地球賞*の受賞者である信州大学の中本信忠教授より、発展途上国の既存の飲料水供給方法に再考を促す活動結果を発表して頂きます。緩速ろ過は高度な技術を必要とする既存の浄水システムと比べ、よりよいエネルギー効率、そして経済効率で飲料水を提供する伝統的な技術です。

均等の大きさの砂層下で成長する微生物の作用によって、流入水を浄化するという、自然の浄化作用を用いたエコロジカルな浄化方法がこの緩速ろ過の技術です。この方法は、流入水の質が浄化能力の範囲に保たれる限りは一切の凝集剤を必要としません。「2015年までに、安全な飲料水と基礎的な衛生施設を継続的に利用できない人々の割合を半減する」というミレニアム開発目標(MDGs)ターゲット10を実現させるためには、緩速ろ過技術が、飲料水供給のシステムにおける第一の選択肢となります。

国連大学は9年以上、アジアにおける沿岸水圏の保全プロジェクトの運営に携わり、沿岸環境の保全と学術ネットワークの構築の重要性を発表してきました。一方で、2005年5月に発表されたミレニアム生態系評価計画では、この数十年において、世界のサンゴ礁の20%が失われ、さらに残りの20%が危機に瀕しており、そして世界のマングローブの35%が同じ期間で失われたという報告がありました。くわえて、湖・河川における取水量は60年代にくらべ、実に2倍になっています。

このフォーラムの後半部では、インドとパキスタンを新たにこのプロジェクトに加え、10年目の第四期に入るこの沿岸水圏保全プロジェクトの業績と新たな挑戦を紹介します。本プロジェクトに参加している岩手県庁、亜熱帯総合研究所の専門家が日本、そして東南アジアの沿岸資源管理についての経験を発表します。

このフォーラム参加費は無料(但し愛知万博入場の際しての費用を除く)。
発表はすべて日本語で行われます。

本フォーラムの取材および中本信忠教授のインタビューをご希望の方は8月5日までに国連大学広報部、担当:谷野(やの)までご連絡ください。(TEL:03-3499-2811、03-5467-1311、FAX: 03-3406-7346; e-mail: media@unu.edu)

*「愛・地球賞」は、地球環境問題の解決と人類・地球の持続可能性に貢献する100の地球環境技術を選定し、授与されている賞です。



国際連合大学は、人間の安全保障や開発といったグローバルな課題に関する知識の普及と人材の育成を目的として、本部(東京)を拠点に世界各地に研究のネットワークを持つ国連総会傘下の独立機関です。1975年に開設され、今年30周年を迎えました。